

茶道部

心を育む空間を求めて・・・

総合教育課程 生涯学習コース 3 回生

茶道部部長 阪井 香織

あなたの心に安らぎの場はありますか？

忙しい日々を過ごしていて、気づいてみれば次の季節を迎え入れていた、というような経験は皆さんありませんか。忙しさのあまり、夢への過程を楽しむことができずにいるのはとても悲しいことです。

茶道部では「限られた空間と互いへの思いやり」をモットーに、みんなで心の安らぎの場を創り出してまいりました。私たちが活動している茶室は、普段見過ごされていた大切なものが形を変えて主張する不思議なスペースです。隔てられた簡素な造りの空間において手にする硝子のお茶碗、そっと出される朝顔の和菓子：限定された空間における配慮だからこそ、それは一層際立つてそこにいるみんなをやさしく、穏やかな気持ちにしてくれるのです。

「思いやり」の心

茶道は規律や作法が厳しそうだと思評する人も多いようですが、実際やってみれば、「厳しさ」を感じることはありません。例えば、亭主（もてなす側）のお茶を点てる一つひとつの動作は、すべて客の立場を考えた上で生み出され、洗練され、今日まで伝承されてきたものです。一方、客はその好意に対する感謝の意を込めた動作

でこれに応えます。そこにあるのは互いの「思いやり」です。

茶道の「やさしさ・温かさ」

茶道は、何故そうするか：ということにさえ気づけば、作法の一つひとつはすべて必然であり、一見垣間見える厳しさも相手のことを思いやるが故の「やさしい」行為なのです。ですから、皆さんもこのやさしさ、温かさを私たちと共に感じてください。

「少し疲れたなあ…」そう感じたらいつでも遊びに来てください。一服のお茶を飲んで少し立ち止まれば、また元気に明日へ足を踏み出せるはずですよ。



卒業式にて



課 外 活 動

バスケットボール部

仲間と共に

総合教育課程芸術文化コース・3 回生

女子バスケットボール部主将 松岡 奈々

私たちバスケットボール部は、男子バスケットボール部18人、女子バスケットボール部19人で活動しています。中学校や高校からバスケットを続けている人や大学に入って新しくバスケットに挑戦した人などレベルも様々ですが、リーグ昇格という1つの目標に向けて、みんなで力を合わせ、日々練習に励んでいます。

活動は主に火・木・土・日の週4回行っています。一番大きな夏のリーグをはじめ、近畿の国公立系大学の大会や西日本大会、京都教育大学との定期戦や全国教育系大学との交流戦など、公式戦は年に7回ほどあります。また、練習試合も自分たちで交渉し、頻繁に行っています。

中学校や高校の部活と大きく違うところは、「自分たちで部を運営する」というところだと思います。部員同士で意見を出し合い、試行錯誤し、みんなで1つのチームを作り上げていく。そんな環境の中で感じることは、他の活動ではなかなか経験できないことも多く、自分が成長させてもらえる最高の場所だと感じています。



います。バスケットの技術だけでなく、チームを作り上げていくことの難しさや楽しさ、仲間と協力することの喜びなど、この部活を通して得られるものはたくさんあります。時には迷い、躓くこともありますが、切磋琢磨し一緒に頑張れる仲間、いつもそばで支えてくれるマネージャー、引退しても応援してくれる先輩がいるからこそ、目標達成に向け、チーム一丸となって頑張っているのだと思います。バスケットの技術はもちろんですが、一人ひとりが一回りも二回りも成長できる部活にしたいと思っています。